

平成24年度第1回中野駅周辺まちづくり推進会議 議事要旨

1. 開催概要

日時：平成24年4月24日（火） 午前10時～12時

会場：中野区議会棟第1委員会室

出席：委員32名のうち25名

2. 質問・意見・事務局説明等

座長コメント

- グランドデザイン Ver. 3 についての議論は今回が最終回となる。皆さんのご意見を出来るだけ反映しつつ、ここまで進めてきたので、本日ご意見を伺ってとりまとめをしたいと考えている。
- 世の中の情勢が非常に流動的ななか、基本はみなさんが安心してふるさとと呼べるような暮らしの場をどうやってつくれるかである。そこに足場を置いて、全体のビジョンができていればよいと思っている。

副座長コメント

- 本日は、我々が考えてきたことを、多くの区民の方にわかりやすく伝えられているかという観点で議論していきたい。我々だけで考え、進めていくものではないので、多くの方に意図が伝わる内容になっていればいい。

委員 1

- 本日説明のあった内容で、概ねよいと思っている。

委員 2

- 20年先を楽しみにしている。よろしく願いたい。

委員 3

- 整備予定の中野三丁目駅前広場や、南口駅前広場、千光前通りに続く坂道などの高低差の解消に向け、橋上デッキなどによるユニバーサルデザイン化に期待している。

委員 4

- 南口駅前広場の整備については、中野二丁目地区市街地再開発との調整を行いながら、早期の実現を図ってほしい。
- 駅前広場を拡張すると、人の流れが変わってくる。地元商店街も繁栄していいまちになるような計画にしてほしい。また、地元商店街にも意見を述べる機会を与えてほしい。

委員 5

- 過去5年間をみると、中野は若い世代が流出している。若い世代に留まってもらい、中野にふるさと感じてもらいたい。ブロードウェイを訪れる若者は増加しているので、周辺を回遊してもらえる仕組みづくりが重要であり、商店街だけでなく行政による対応も考えてもらいたい。

委員 6

- 区内のそれぞれの組織が、防災についてのソフトな活動や計画を持つことはなかなか難しい。まずは行政からの指摘や指導によって大まかな方向性をつくり、それぞれの組織での活動や計画づくりに繋げていきたい。

座長コメント

- 防災を教育ではなく、暮らしに密着した文化と考えてもらいたい。ハードの防災機能とあわせ、ソフトの防災文化という言葉を入れると一般の人にもわかりやすい。

委員 7

- 東京都の震災の被害想定は、震度7を想定したものに変わった。木造住宅密集地域の問題など、もっと真剣に考えるべきである。また、中野は狭あい道路が多いので、狭あい道路の解消をさらに進めてもらいたい。

委員 8

- 区役所と体育館の最適配置の検討が急に話題に出てきた。その理由を教えてください。
- 区) 中野四季の都市(まち)での国家公務員宿舎の建設が中止となり、区が公園用地として取得できることになった。その東側に続く敷地を区役所予定地とするのが最適かどうか、区全体の防災性を高めるという観点から、公共施設の最適な配置を改めて検討していくためである。

委員 9

- 道路の問題が一番大きな問題だと思う。中野通りを中心に南北の交通量は増加している。問題解決に向けて、積極的に整備を進めてもらいたい。

委員 10

- 素案を何度読んでも、どんなイメージのまちができるのかわからない。

委員 1 1

- ハコモノが完成しても、まちづくりは出来上がっていない。その後いかにまちづくりを進めていくか、ソフトの基盤づくりが大事だという共通認識を持ちたい。
- 3.11 以降、企業は事業継続や防災対策に非常に関心が高い。自社の社員だけでなく、地域を含めてまち全体を守ろうという方向に意識が変化しているのを感じている。防災を最重要課題として、今後のまちづくりに取り組んでいきたい。

委員 1 2

- 中野四季の都市（まち）の他の立地事業者と連携を図り、行政も交えて、防災機能の充実に取り組んでいかなければならないと考えている。
- 大学として、学びの観点で地域とどう関わっていくか、大学の持っている知的財産をどう還元していくか、行政と協議しながら進めていく必要がある。地域の方々とどう連携を図るかを一番に考えていきたい。
- 中野駅の利用者は、時間帯によっては相当な人数になってくると思うが、J Rはどう考えているのか。試算は行っているのか。
- 区) 区では、駅周辺の開発によって、どのくらい駅前広場利用が増えるかという試算は行っている。それに基づいて、J Rと協力しながら中野駅地区の整備を着実に進めていきたいと考えている。

委員 1 3

- 今後の方向性をかなり打ち出しているので、いい計画だと思っている。
- 囲町地区まちづくりのスケジュールには、具体的な段階は書かれていないが、他のプロジェクトより早く進む場合もあると考えてもらいたい。

委員 1 4

- 区役所・サンプラザ地区は、新北口駅前広場を含めた一体的な再整備という方向が打ち出されている。再整備によって、より多くの人に親しまれるとともに、たくさんの人を集め、中野のまちとうまく繋がっていくような方向を探っていきたいと考えている。

委員 1 5

- サンモール・ブロードウェイから、薬師あいロード・新井薬師駅方面への商店街の通りをつなげていくことができないかと考えている。哲学堂など周辺に文化財がたくさんあるので、それを活かすようなまちづくりを考えていきたい。
- このような会議には高齢者の委員が多いので、若い人の意見を組み入れていけるようなまちづくりをしてもらいたい。

委員 16

- 生活環境や業務がミックスしてどのように発展していくのかをもう少し強調すると、中野がどういうまちになるのかわかりやすくなる。
- 価値軸を区民や民間事業者と共有していくという表現を加えてもらいたい。また、価値軸はもう少し短い言葉で表現したほうがわかりやすい。
- 防災に対する考えは重要であり、中野は災害時に東京の中でも情報環境が早く復旧できる体制が整うと素晴らしい。企業も中野に集まってくる。
- 駅周辺の都市施設のデザインがバラバラでは良くない。専門家にまち全体のデザインを見てもらうのがよいと思う。

委員 17

- 区民が喜んでくれるまちづくり、区民が誇れるまちづくり、税金が増やせるまちづくりをしてもらいたい。まちづくりによって税金が増え、それが区民に還元され、安心して生活できるようにしてもらいたい。
- 日本の武道の良さは世界から注目されている。中野に大きな大会ができる体育館があるといい。中野のまちを世界から注目されるような素敵な場所にしてもらいたい。

委員 18

- まちが変わっていく途中段階においても、安全を一番に考え、歩きやすさや使いやすさに配慮や工夫をしてもらいたい。
- 中野としての個性を出してもらいたい。中野サンプラザのような個性ある建物や全体的にも個性のあるまちづくりを目指していけるといい。

委員 19

- 中野の道路は段差がたくさんあるので、段差が無くなるような整備をしてもらいたい。住みよい中野のまちをつくってもらいたい。

区コメント

- 区) これまで皆さんにいただいたご意見、ご要望、ご提案等をこれからのまちづくりに活かしていきたい。安全・安心、持続可能性、協働といった都市整備の基本理念に基づいてまちづくりを進めていくためには、まちづくりの全体像を区民や事業者の方々と共有していくことが極めて大事だと思っている。今後、グランドデザイン Ver. 3 に基づき、関係する皆さんと意見交換を行いながら、ハード・ソフト両面のまちづくりを進めていきたいと考えている。

区コメント

- ▶ 区) 皆さんのご意見を受け止めながら、まちづくりができる土台をグランドデザイン Ver. 3 でつくることができたと思っている。具体的に整備することが決まっていない部分も含め、区域全体のまちづくりを議論していることが中野駅周辺まちづくりの難しさである。
- ▶ 区) これからの20年間、まちづくりを進めていくなかで、描いていかなければならないことは、まだまだたくさんある。これまで進めてきたことの土台を踏まえ、まちづくりを具体化していくのはこれからである。さらにまちづくりを進めていくなかで、皆さんからいろんなご意見をいただきたいと思っている。

副座長コメント

- 中野四季の都市（まち）の開発が進み、まちづくりの第1ステージが具体化してきた。それに安全や防災の視点を加えたものがグランドデザイン Ver. 3 である。これを指針として活用すると同時に、具体的な活動の検討を行ってほしい。
- 1つは、第1ステージの効果で中野の文化・産業をいかに発展させるか、防災性の高さを周囲にいかに波及させるかである。もう1つは、次のステージをいかに誘導するかである。ビジョンだけでは動かないので、行政が財政的な裏付けのある具体的なスケジュールを明示する必要がある。

座長コメント

- まちづくりでは、相互に意見は言うが、最後は皆の繁栄のために結束することが大切だと思う。20年後には東京のいろいろな都市の姿がはっきりしてくるので、今から中野の位置取りを考えていく必要がある。
- 最先端とはどのようなことか、というのがこれから問われてくる。中野と他の都市とはあり方が違うので、これからのまちづくりのなかで議論していかなければならない。
- 最高レベルとは、中野で生活することが幸せだと言えることであり、本当の意味での豊かさだと思う。まずは住んでいる人がいい生活をすることであり、そうすれば外からも人が集まってくるようになる。
- ハードの整備にはお金も時間もかかるが、ソフトの整備は明日からでもできる。防災機能の充実と防災文化の構築を2本立てで考えたほうがいい。
- 大事なことは押さえつつ、ある段階まではわかりにくさに耐えることも、まちづくりのあり方だと思っている。わかりやすくまとめるとすぐに古くなってしまうリスクもある。どこかの段階ではっきりさせていく必要はあるが、グランドデザイン Ver. 3 の内容はこれくらいでよいと思う。